

# 「私たちの道徳」から道徳授業を構想するワークとその課題

河野 桃子（信州大学 学術研究院総合人間科学系）

## 1. 担当講座の概要

今年度、筆者が担当したのは、選択必修講座「道徳教育を考える」（A）および（B）それぞれの、ワークを中心とした講座計4コマ分（2コマ×2回＝計4時間）である。講座（A）の方は8月に開講し、受講者数は65名、講座（B）の方は11月に開講し、受講者数は24名であった。いずれも、松本キャンパスにて実施した。

講座（A）（B）ともに、全6時間中の4時間は、道徳について哲学的に考えるアプローチを再確認する講座と、道徳の教科化に関する内容構成論と実践論に関する講座を開講していたため、筆者の担当講座では、受講者に、それらの学習内容を活かしたワークを行ってもらうことを中心的な課題とした。ただし、講座（A）と（B）とでは、受講者の人数に大きな差があったこと、また、講座（B）の方には、普段、幼児教育に携わっている受講者が複数名、参加していたことから、進行方法には若干の違いが生じた。以下に、両講座に共通する概要を示した上で、それぞれの講座の特徴を紹介していく。

・両講座ともに、『私たちの道徳』掲載の読み物資料①～③から、もっとも関心のある内容を受講者に選択してもらい、5～6名のグループを作って、1単元の道徳授業を構想してもらった。扱った資料は、次の通りである。

- ①「ぼんたとかんた」（『わたしたちの道徳 小学校一・二年』38-41頁）
- ②「心と心のあく手」（『わたしたちの道徳 小学校三・四年』66-69頁）
- ③「二通の手紙」（『私たちの道徳 中学校』140-145頁）

・その際、まず初めに、現在の道徳授業に、「でっちあげ」や「正解当てゲーム」のようになっ  
てしまっている傾向があるのではないかという批判があることを紹介し（松下 2011、68-69頁）、今回のワークでは、こうした傾向を乗り越えることを意識して作業を進めてほしいことを伝えた。

・その上で、上記の傾向を乗り越える可能性として、「あちらとこちら、どちらが正しいか？」と二項対立的な問いを立て、その内の「どちらかが正しい」と思い込んでしまうことを「問い方のマジック」と呼ぶ苦野一徳の論を紹介し（苦野 2015、232-236頁）、そうではなく、「どちらの意見も考えあわせたいうえで、どうすれば双方が納得できる第三のアイデアを見出すことができるだろうか」（同上）と考える視点の重要性を提示した。以上を確認

した上で、ワークに取り組んでもらい、成果を模造紙に記述した上で、全体に向けて発表をしてもらった。

・なお、講座（A）では、受講者数が多かったため、最後の発表の際に全グループの成果を共有することは困難であると予想された。このため、事前にすべてのグループの模造紙を会場に貼りだしてもらい、「聞いてみたい授業 No.1 投票」を行った。その上で、①②③それぞれの教材を選んだグループから各一組ずつ、もっとも点数の高かったグループに、前に出て発表してもらった。

・講座（B）では、受講者数が少なかったため、ワークの際に気をつけてほしい点について確認する部分により多くの時間を割くことができた。また、すべてのグループの発表を聞くことができた。

## 2. 今後の課題

以下では、上記の概要を踏まえた上で、両講座の成果の違いを確認し、今後の講習へと活かせるようまとめてみたい。

まず、講座（A）では、同じ資料を扱った別のグループの成果を複数見ることができたため、講義終了後に、他グループの作品の写真を撮るなど、同じ（近い）校種の教員同士での学び合いの場面が見られた。（※なお、写真撮影については、事前に講師から全体に許可の確認を得ている。）

一方、講座（B）では、少人数であったために全校種の成果を順番に共有することができ、自身の所属校（園）の子どものための道德教育を、幼稚園から高校までの長いスパンのなかで見直すことが可能となった。

少人数の講座にも大人数の講座にも、それぞれのメリットが確認され、充実した講座となったと言える。ただし、講座後のアンケートには、「明日の道德授業に使えることをさらに知りたかった」のような意見も見られ、すぐに実践に応用できる、授業事例についての新しい知識を期待している声があることも明らかになった。この点については、現在の自身の道德教育を見る視点に変化が生じることも「明日の授業に使える」ことになるのではないか、という検討も含め、来年度以降の講座に反映させていきたいと考えている。

### 【参考文献】

苦野一徳 2015 「建設的な議論のやり方とは？—「共通了解」を見出そう」井藤元編『ワークで学ぶ教育学』ナカニシヤ出版

松下良平 2011 『道德教育はホントに道德的か？—「生きづらさ」の背景を探る』日本図書センター